

村上家代々

初代	宗伯	?年～寛文10(1670) 良道	行橋の浄喜寺村上蓮休の三男、大阪の古林見宜に医学を学び、寛永17年(1640)医師開業の免許皆伝を受け、中津で医業を開く 寛永17(1640)小笠原御殿医に
2代	養元	正保4(1647)～宝永1(1704) 白鷗軒、睡鷗堂	寛文10年(1670)継ぐ。小児科医として活躍か？ 著述に「秘伝小児初生方」 延宝4年(1676)がある。
3代	玄水	延宝1(1673)～享保14(1729)	宝永元年(1704)継ぐ 中津奥平家初代昌成時代に、奥平家御典医として、活躍。享保12年(1727)に悦姫病気を治したことで、銀十枚と生涯にわたって三人扶持を賜る。著述に写本「玄水家帚」がある。また薬「磨積圓」を製作した。
4代	玄洞	?年～享保18(1733)	享保14年(1729)継ぐ 3代玄水の弟、世つぎ長庵幼少のため後見
5代	長庵	宝永7(1710)～明和9(1772)	享保18年(1733)継ぐ、詳細は不明
6代	玄秀	延享2(1745)～文政4(1821) 萃林堂、維岳	明和9年(1772)継ぐ 天明6年(1786)御殿医(十人扶持)となる 文化7年(1810)100石 手記「御殿医覚書」などを遺した。
7代	玄水	天明元(1781)～天保14(1843) 卓、玄立、通称は傳次、善地堂	中津藩儒、倉成龍渚、野本雪巖に漢学を、久留米藩儒梯隆恭に軍学を学び、その後、窮理学をも勉強した。 文化8年(1811)継ぐ 文政2年(1819)近在の医師59名の見守る中、長浜刑場で九州二番目の人体解剖を行った。解剖の記録「解臟記」を遺している。
8代	春海	文化4(1807)～明治26(1893) 良一、貞、宗玄、玄秀、春水	文政7年(1824)17歳にして家督を許された。 弘化4年(1847)、奥平昌服の初のお国入りに際して、侍医を務める。元治元年(1865)隠居の許可が通り、又この年筑前秋月藩医杉全家と養子縁組した杉全又玄(後の村上田長)の家督相続が許された。 種痘が伝わり文久元年(1816)中津医学館を設立
9代	田長	天保10(1839)～明治39(1906) 又玄、田翁、松瀬	元治2年(1865)秋月藩の御殿医杉全家から養子に入り25歳で家督を継ぐ 鎮西義塾を建て、田舎新聞を創刊、大分中学師範学校の初代校長 慶応3年(1867)、大阪医学校に入学。増田宋太郎とともに、大分県最初の新聞である「田舎新聞」を創刊。大分中学校兼大分師範学校校長や玖珠郡長に任命されるなど、各分野で活躍、耶馬溪鉄道も拓く。
10代	和三	明治36(1903)継ぐ	巧児 実業界へ 明治12年(1879)～昭和38年(1963) 村上田長の四男。早稲田大学を卒業後、新聞、デパート・電力会社と転職し、各方面で活躍。
11代	健一	昭和22(1947)継ぐ	
12代	玄児		
13代	右児		